

## 【投稿・執筆規定】(2019年2月12日改訂)

### I. 概要

**内容**：MHCに関する基礎研究から臨床研究まで全てを対象にし、未発表の論文、他誌に投稿中（もしくは掲載予定）でないものに限る。

**資格**：筆頭著者および責任著者は本学会会員であり、その他の共著者も、原則として、本学会会員に限る。ただし、MHC編集委員会が非会員に執筆を依頼した総説については、その限りでない。

**倫理**：ヒトおよびヒトの試料を用いた臨床研究・基礎研究の場合、ヘルシンキ宣言（「ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則」、1964年第18回世界医師会ヘルシンキ総会採択、2013年フォルタレザ総会修正）に基づき、文部科学省が定める関連倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理指針」、「ヒトES細胞の分配及び使用に関する指針」、「ヒトiPS細胞又はヒト組織幹細胞からの生殖細胞の作成を行う研究に関する指針」等）に従うと共に、所属施設等の倫理委員会の審査を経て、施設長による承認を得たものでなければならない。また、遺伝子組換え実験は「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（いわゆるカルタヘナ法）」、動物を用いた研究については動物愛護管理法に基づく「実験動物の飼育及び保管等に関する基準」（2006年環境省告示）などを遵守し、それぞれ所属施設における関連委員会等にて所定の手続きによる審査・承認のもとに行われた研究でなければならない。

**種類**：原著、総説、シリーズ、短報(研究速報、技術速報などを含む)、症例報告などとし、日本語、英語を問わない。

**利益相反の開示**：MHCに原著論文もしくは総説を掲載する場合には、利益相反事項について開示しなければならない。

**審査**：投稿論文掲載の採否は当誌編集委員会において決定し、審査は複数の査読制で行う。審査の結果を踏まえ修正、削除、加筆などを求める場合がある。

**著作権**：本誌に掲載された論文などの著作権は日本組織適合性学会が有し、インターネットを通じて電子配信されることがある。とくに、原著、総説については、原則として科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナル配信サイト（J-STAGE）にて配信される。

**掲載料**：掲載は無料であるが、カラー写真など特別印刷に関わる経費は著者の

実費負担とする(カラー印刷を希望の場合には、投稿原稿にその旨を明記すること)。

別刷：別刷(抜き刷り)は有料とし、その経費は別冊部数やページ数による(別冊希望の場合は、著者校正の際にその旨を明記すること)。

※論文の構成や形式等について疑問や不安等がある場合には、MHC 編集委員会がアドバイス等に対処可能であるため、投稿規定の末尾にある連絡先まで連絡されたい。

## II. 原著執筆書式

### 1. 執筆要項

12,000 字(刷り上がり 12 頁程度)以内とする。ただし、図、表、写真は、1 点につき概ね 400 字に該当するものとし、それぞれに表題を記載し、挿入箇所を本文に明記する。また、図説は本文の最後に記載する。本文は Microsoft Word で作成し、表は Microsoft Word もしくは Microsoft PowerPoint, 図、写真は Microsoft PowerPoint を使用する。原稿は記憶媒体(CDR 等)に保存もしくは Email 添付で、投稿レターを添えて編集長に送付する(送付先は投稿・執筆規定の末尾を参照)。

### 2. 第 1 頁目

表紙とし「原著」を明記し、日本語と英語でタイトル、著者全員の氏名と所属に加えて、責任著者(連絡責任者)の住所、氏名、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレスを記載する。なお、タイトル、著者名、所属の記載は下記の形式に従う。

Susceptibility gene for non-obstructive azoospermia in the HLA class II region: correlations with Y chromosome microdeletion and spermatogenesis. Tetsuya Takao<sup>1</sup>, Akira Tsujimura<sup>1</sup>, Masaharu Sada<sup>2</sup>, Reiko Goto<sup>2</sup>, Minoru Koga<sup>3</sup>, Yasushi Miyagawa<sup>1</sup>, Kiyomi Matsumiya<sup>1</sup>, Kazuhiko Yamada<sup>2</sup>, Shiro Takahara<sup>1</sup>

1) Department of Urology, Osaka University Graduate School of Medicine,

Suita, Osaka, Japan

2) Department of Regenerative Medicine, National Cardiovascular Center, Suita, Osaka, Japan

3) Department of Urology, Osaka Central Hospital, Osaka, Japan

心移植における FlowPRA 法を用いた HLA 抗体検出の意義

山本 賢<sup>1)</sup>, 佐藤 清<sup>1)</sup>, 佐田 正晴<sup>2)</sup>, 永谷 憲歳<sup>2)</sup>, 中谷 武嗣<sup>3)</sup>

1) 国立循環器病センター臨床検査部

2) 国立循環器病センター再生医療部

3) 国立循環器病センター臓器移植部

### 3. 本文-1 : 日本語での投稿

・2 頁目から, 和文要旨 (400 字以内) および 250 words 以内の英文要旨, キーワード (日本語および英語, それぞれ 5 語以内) を記載する。なお, 英文要旨について, 著者グループのみでは作成が難しい場合には, 編集委員会による対応も可能であるので, 投稿レターにその旨を明記すること。

・ページ替えて, 「はじめに」, 「材料と方法」, 「結果」, 「考察」, 「謝辞」, 「利益相反事項の開示」, 「引用文献」, 「図説」の順に記載する。

① 専門用語以外は常用漢字, 新かな遣いに従い記述する。

② 本文中の英単語は固有名詞を除き全て小文字で統一する。

③ 地名, 人名, 学名は原語のまま用い, 薬品名は一般名を用い商品名は括弧内に記す。

④ 単位, 数量は国際単位 (cm, ml, g, Kg, pg,  $\mu$ l, %, °C など) を, 数字はアラビア文字を用いる。単位と数字の間には半角スペースを入れる。

⑤ 遺伝子名 (シンボル) はイタリックで表記する。例えば, *HLA-DRB1* (タンパク名として用いる場合はイタリックにしない)

### 4. 本文-2 : 英語での投稿

・2 頁目に 250 words 以内の要旨, キーワード (5 語以内) を記載する。

・3 頁目より, 「Introduction」, 「Materials and Methods」, 「Results」, 「Discussion」, 「Acknowledgements」, 「Disclosures」, 「References」,

「Legend to Figures」の順に記載する。

- ① 地名，人名，学名は原語のまま用い，薬品名は一般名を用い商品名は括弧内に記す。
- ② 単位，数量は国際単位(cm, ml, g, Kg, pg,  $\mu$ l, %, °Cなど)を，数字はアラビア文字を用いる。単位と数字の間には半角スペースを入れる。
- ③ 遺伝子名（シンボル）はイタリックで表記する。例えば，*HLA-DRB1*（タンパク名として用いる場合はイタリックにしない）

#### 5. 本文-3：略語一覧の作成【作成要項】

- ① 略語はアルファベット順に並べる。
- ② 略語の後に「:」を入れ，フルスペル（先頭のみ大文字とし，他は小文字とする）を記載する。  
例) LCT: Lymphocyte cytotoxicity test
- ③ 商品名は略語一覧に入れない

#### 6. 利益相反事項の開示（日本語，英語いずれの場合とも）

学会 HP にある取り扱い (<http://jshi.umin.ac.jp/coi/index.html>) に掲載されている「COI があるとして申告する範囲に関する規則 (JSHI\_COI 規則)」を必ず参照し，申告すべき利益相反事項がある場合には，COI 申告\_様式2を用いて申告すること。

また，論文等では本文の末尾で引用文献の前に，以下を明記すること。

##### \* 申告すべき利益相反事項がない場合

(和文) 利益相反：申告すべき事項なし

(英文) Disclosures: none to declare

##### \* 申告すべき利益相反事項がある場合（事項に応じて記載する。以下は例示）

(和文) 利益相反：以下の利益相反事項があります。

本論文の内容に関連して，著者〇〇が△△社より受けた講演料（□円）

本論文に記載した研究は，〇〇社から受けた研究費（□円）による。

(英文) Disclosures:

○○（著者名） received a reward for lecture from （営利企業名）  
This study was conducted by a research fund from （営利企業名）

## 7. 引用文献

引用文献は本文中の引用箇所の右肩に片カッコ付きで番号を付し，引用順に一括して，以下の例に従って，著者名，論文名，雑誌（もしくは書）名（英文の場合はイタリック表記），巻（号），最初と最後のページ，発表年を記載する。著者名，編集者名は筆頭者から3名まで列記し，4名以上は他または et al. とする。なお，引用論文の（号）については，原則として記載するものとするが，存在しないあるいは不明な場合には不記載を可とする。

1. Shi Y, Yoshihara F, Nakahama H, et al.: A novel immunosuppressant FTY720 ameliorates proteinuria and alterations of intrarenal adrenomedullin in rats with autoimmune glomerulonephritis. *Regulatory Peptides* 127(1-3): 233-238, 2005.
2. Tongio M, Abbal M, Bignon JD, et al.: ASH#18: HLA-DPB1. *Genetic diversity of HLA Functional and Medical Implication* (ed. Charron D), Medical and Scientific International Publisher, p.134-136, 1997.
3. 難波行臣，今尾哲也，石黒 伸 他：既存抗体陽性生体腎移植後に生じた抗体関連型拒絶反応に対して血漿交換および免疫グロブリン大量療法（IVIG）が奏効した1例. *血管外科* 17(1): 36-40, 2005
4. 佐田正晴，高原史郎：腎移植-組織適合と拒絶反応. 新図説泌尿器科学講座 6「腎疾患，神経泌尿器科，老年泌尿器科」（吉田修 監修），Medical View 社，p.120-125，2000.

## Ⅲ. 短報（研究速報，技術速報などを含む），症例報告執筆書式

### 1. 執筆要項

6,000字（刷り上がり6頁程度）以内とする。ただし，図，表，写真は，1点につき概ね400字に該当するものとし，それぞれに表題を記載し，挿入箇所を本文に明記する。また，図説は本文の最後に記載する。本文は Microsoft Word で作成し，表は Microsoft Word もしくは Microsoft PowerPoint，図，写真は Microsoft PowerPoint を使用する。原稿は記憶媒体（CDR等）に保存

もしくは Email 添付で投稿レターを添えて編集長に送付する（送付先は投稿・執筆規定の末尾を参照）。

## 2. 第1頁目

表紙とし「短報」「症例報告」を明記し、日本語と英語でタイトル、著者全員の氏名と所属、連絡責任者の住所、氏名、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレスを記載する。タイトル、著者名、所属等の記載は「原著」の形式に従う。

## 3. 本文(日本語および英語での投稿)

- ・ 2 頁目に、英文要旨 (200 words 以内)、キーワード (3 語以内) を記載。
- ・ 3 頁目以降は、原著執筆書式 3. の 3 頁目以降に準じる。

## IV. 総説, シリーズその他

日本語、英語のいずれも可とする。概ね 6,000~12,000 字 (刷り上がり 6~8 頁) 程度とし、利益相反事項の開示を含めて、上記の原著執筆書式に準じるが、本文構成の一部（「材料と方法」、「結果」、「考察」等）については、適宜変更することも可とする。

## V. 原稿送付先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

大阪大学大学院医学系研究科 J8

先端移植基盤医療学気付

日本組織適合性学会誌 MHC

編集長 木村 彰方

担 当 谷本 佳澄

<E-mail : [tanimoto@att.med.osaka-u.ac.jp](mailto:tanimoto@att.med.osaka-u.ac.jp)>

Tel: 06-6879-3746

Fax: 06-6879-3749